

I 野菜の概況

1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成17年度は96.3kgであったが、平成18年度（概算）は94.8kgと、1.5kg減少した。

これに対し、野菜の生産量は産地の高齢化等により、減少傾向で推移し、平成17年度は1,249万トンであったが、平成18年度（概算）は1,236万トンと、13万トン減少した。

また、野菜の輸入量は、平成18年度は325万トン（生鮮換算ベース）で、前年比96.4%であった。

以上により、平成18年度（概算）の野菜の自給率は、前年度と同じく79%となった。

表1 野菜の需給動向

(1) 平成18年度（概算値）

人口 127,770千人（平成18年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳				
	生産量	輸入量	輸出量	飼料用加工用種子用			減耗量	粗食料		純食料	供給数量
								総数	1人1年当たり		
野菜	12,363	3,246	9	0	15,600	0	1,589	14,011	109.7	12,118	94.8
a. 緑黄色野菜	2,660	1,438	2	0	4,096	0	391	3,705	29.0	3,420	26.8
b. その他の野菜	9,703	1,808	7	0	11,504	0	1,198	10,306	80.7	8,698	68.1
野菜	12,363	3,246	9	0	15,600	0	1,589	14,011	109.7	12,118	94.8
1. 果菜類	3,405	1,492	2	0	4,897	0	483	4,414	34.5	3,660	28.6
うち果実的野菜	827	69	0	0	896	0	108	788	6.2	535	4.2
2. 葉茎菜類	5,899	1,006	0	0	6,905	0	864	6,041	47.3	5,277	41.3
3. 根菜類	3,059	746	7	0	3,798	0	242	3,556	27.8	3,181	24.9

資料：農林水産省「食料需給表」

(2) 平成17年度（確定値）

人口 127,768千人（平成17年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳				
	生産量	輸入量	輸出量	飼料用加工用種子用			減耗量	粗食料		純食料	供給数量
								総数	1人1年当たり		
野菜	12,492	3,367	10	0	15,849	0	1,609	14,240	111.5	12,302	96.3
a. 緑黄色野菜	2,692	1,446	2	0	4,136	0	395	3,741	29.3	3,454	27.0
b. その他の野菜	9,800	1,921	8	0	11,713	0	1,214	10,499	82.2	8,848	69.3
野菜	12,492	3,367	10	0	15,849	0	1,609	14,240	111.5	12,302	96.3
1. 果菜類	3,624	1,548	2	0	5,170	0	503	4,667	36.5	3,865	30.3
うち果実的野菜	888	75	0	0	963	0	114	849	6.6	572	4.5
2. 葉茎菜類	5,805	1,122	2	0	6,925	0	865	6,060	47.4	5,298	41.5
3. 根菜類	3,063	697	6	0	3,754	0	241	3,513	27.5	3,139	24.6

資料：農林水産省「食料需給表」

(3) 食料自給率

（単位：%）

	昭和40年度	50	60	平成7年度	12	13	14	15	16	17	18（概算）
供給熱量ベースの総合食料	73	54	53	43	40	40	40	40	40	40	39
野菜	100	99	95	85	82	82	83	82	80	79	79

資料：農林水産省「食料需給表」

2 野菜の価格動向

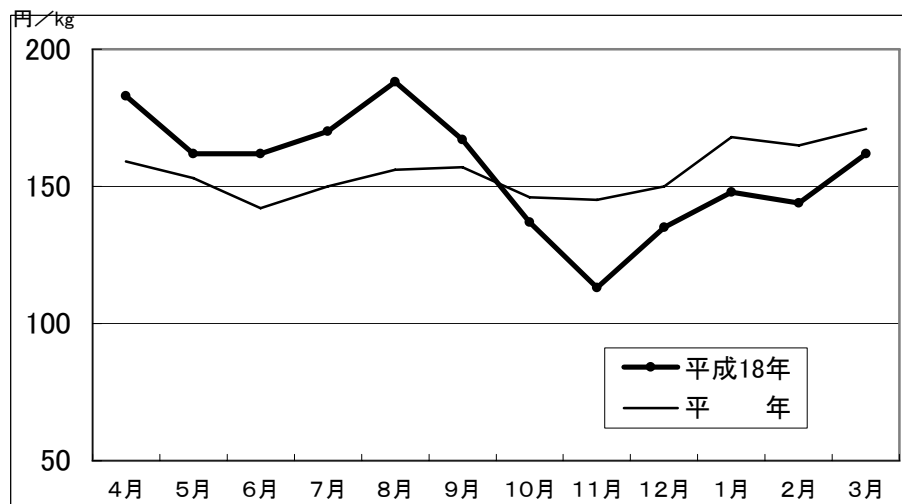
平成18年産の春野菜は、春先から低温・天候不良の影響を受け、特に果菜類・葉菜類を中心に生育不良で入荷量が平年を下回り、価格は堅調に推移した。

夏野菜は、全国的に天候不良・梅雨明けも遅く、大雨、日照不足等から生育不良となり、7月下旬から8月上旬に入荷量が大幅に減少した。このため、レタス等の葉菜類、きゅうり等の果菜類を中心に価格高となった。

しかし、秋以降は、記録的な高温・好天により秋冬野菜の生育が大幅に前進化したことから、はくさい、キャベツ、だいこん、はくさい等の重要野菜を中心に全面安の価格となり、11月、12月には、キャベツ、だいこん及びはくさいで緊急需給調整（産地廃棄）が実施された。

年明け以降も全国的に気温が高かったことから、引き続き市場価格は軟調に推移した。

図1 指定野菜(14品目)の卸売価格の動向(東京都中央卸売市場)

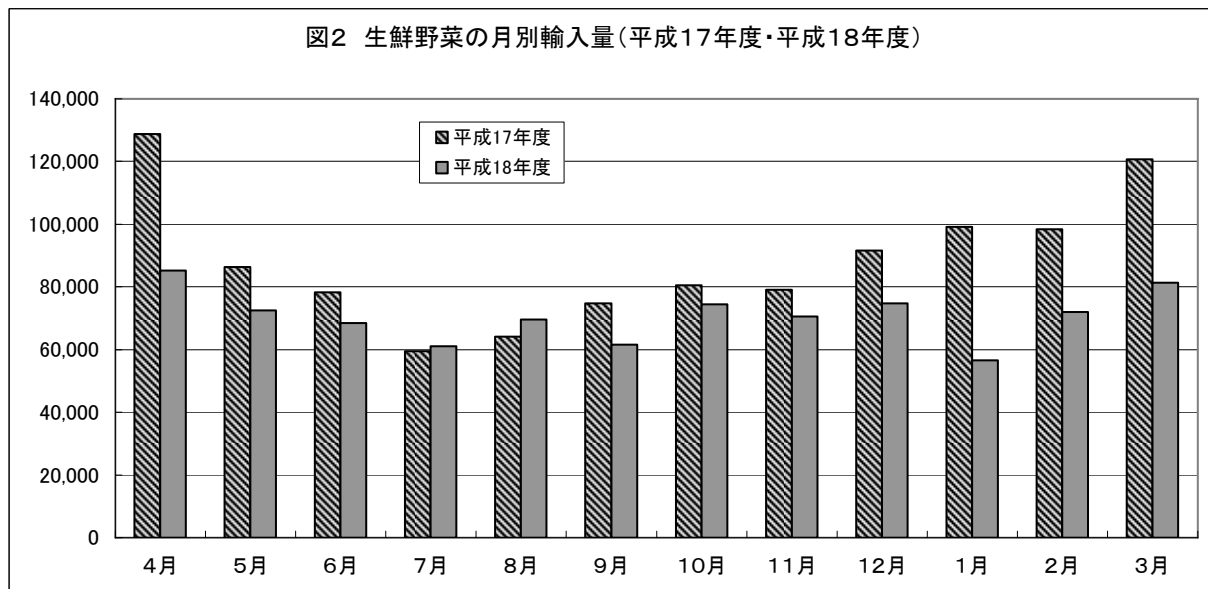


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成18年	183	162	162	170	188	167	137	113	135	148	144	162
平年	159	153	142	150	156	157	146	145	150	168	165	171

資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及
注：平年とは、過去5カ年（平成13年度～17年度）の月別価格の平均値である。

3 野菜の輸入動向

平成18年度の野菜の輸入量は325万トン（生鮮換算ベース）と前年比96.4%で減少し、うち、生鮮野菜は、85万トンと前年比79.9%の大幅な減少となった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成17年度	128,675	86,366	78,317	59,494	64,176	74,720	80,591	79,050	91,574	99,095	98,292	120,759	1,061,109
平成18年度	85,132	72,459	68,537	61,039	69,669	61,489	74,405	70,571	74,720	56,502	72,060	81,370	847,953
対前年比													79.9%

資料：財務省「貿易統計」